

第1回 シグマ研究・専門委員会議事録

日 時： 昭和45年5月15日(金) 11:15~17:45

場 所： 日本原子力研究所本部第2会議室

出席者：

百田光雄(原研), 安成弘(東大), 飯島俊吾(NAIG),
五十嵐信一(原研), 桂木学(原研), 坂本正誠(原研),
瑞慶覧篤(日立, 山本代理), 鈴木猛(原研),
立花昭(原電), 塚田甲子男(原研), 中嶋龍三(法大),
中村久(富士), 西村和明(原研), 更田豊治郎(原研),
宮坂駿一(原研), 森田敏夫(MAPI)

配布資料；

1. 44年度第5回シグマ研究・専門委員会議事録
2. 核データ情報・評価専門部会'45年度実行計画と'46年度計画案
3. JAERI-Fast Set の概要, とその関係資料2部
4. '45年度実行予算
5. '46年度概算要求(案)
6. 人事
7. 第3回中性子断面横研究会プログラム(案)
8. '45年度NEUDADAデータのグラフ化に対する研究案の審議

議題；

1. 前回議事録の確認
2. 各専門部会の現状報告
3. データ・シートによる文献収集の今後に対する結論

4. 熱中性子小委員会(臨時)の結成
5. 45年度実行予算の提示
6. 46年度概算要求の討議
7. 人事の件
8. Progress Report の紹介と検討
9. Plotting に関する研究室案の検討
10. 第3回中性子断面積研究会

議 事

1. 前回議事録の確認

訂 正

P.3 14行 (坂本委員)。→ ベル。

P.4 32行 ライト } ペン → ライトペン

2. 専門部会の現状報告

a. 核データ情報・評価専門部会(資料2)

各W.G.の状況については資料に概略してある。データ・シートによる文献収集に対しては専門部会としての結論が出された。それについては議題の3で述べる。

b. 炉定数専門部会(資料3)

Fast用炉定数の作成は44年度で終了した。8ヶのベンチマーク高速炉心についてサーベイを行なつた。Thermal用Fast炉定数処理用コード(PROF GROUCH M.)を作りIBMからFACOMへの変換を今行なつている。Thermal用Thermal炉定数はJNDC/M.1, ENDF/A, ENDF/B, UKNDLを比較して作成された。JAERI-memoを準備中。Thermal-F.P.炉定数の方はgroupingが終了した。炉定数を作る活動は終つたがまだ評価が残つている。UKNDLの76核種に対するFast F.P.炉定数が完成した。

3. データ・シートによる文献収集の今後に対する結論

核データ情報・評価専門部会から次の結論が出された。

1. 旧核データグループが今まで行なつて来た網羅的な収集は終止する。
2. 今後の方針に関しては各W.G.に任せる。
3. 収集の状況に関して各W.G.間に定期的な連絡会を開き、その結果を専門委員会に提出する。

この結論をもつて本委員会の結論とすることになつた。

4. 熱中性子小委員会

委員長から次の趣旨で小委員会を作つて欲しい旨の提案がなされた。

1. 原子炉の解析あるいは設計に用いるべき核データのセットを出来るだけ速かに整備するというシグマ委員会の使命に照らし合せて、熱中性子データ（文献収集は除く）については現段階で一応使命が果されたと判断してよいか。
2. 热中性子核データのファイル或はテープは最低限どの段階まで（核種、温度）整備すべきか、小委員会の構成メンバーとしては次の人々が候補にあげられた。

飯島、中原、角谷、大竹、土橋、藤田、立花、坂田、桂木、坂本、関谷、原研J P D R から 1名、飯島委員を小委員長として上記通り小委員会が設定されることになつた。検討した結果は次回の本委員会に提出される。

5. 45年度実行予算の提示（資料4）

幹事会で検討された案が示され、原案通り45年度実行予算が決定した。

なお、資料中の核データ情報、評価専門部会

I) $(n, \gamma), C$ の $\sigma_{n, U^{238}(n, n')}$, MeV の Standard

Cross Section 130万

VI) NEUDADA グラフ化の計算 100万

の計230万は研究室で管理し、残りは各専門部会の部会長が総括する。

6. 46年度概算要求の討議（資料5）

討議資料として提出された案は、新しく遮蔽専門部会をシグマ研究委員会の中に作り、核データ、センターとシグマ研究委員会を明確に二分した形になつてある。第1の遮蔽専門部会を設けることについて遮蔽関係の委員から、学会の専門委員会が解散したこと、作業の場所をシグマ研究委員

会の中に作りたいこと等の説明がなされた。討論の結果、46年度予算の中に「遮蔽定数」という言葉を入れることにした。遮蔽の作業内容については後日検討する。第2の点については核データセンターを前面に出した形で一本化することになった。実際に遮蔽専門部会が46年度に発足するか否かは予算査定結果が明らかになつた上で討議する。遮蔽関係委員会から当委員会に遮蔽専門部会を作つてほしい旨の要望書を関係方面に出してもらう。

7. 人事の件(資料6)

・資料への追加

本委員

宇井治生(東北大) 入る。

・資料の訂正

核データ情報・評価専門部会

川合将義(NAIG) 水田氏と交代で入る

水田宏(NAIG) 出る

炉定数専門部会

川合将義(NAIG) 水田氏と交代で入る。

8. Progress Report の紹介と検討

編集委員の一人である更田委員が全Reportを紹介した。

このProgress Reportは日本の全作業を網羅しているとは言えない。

また炉定数関係の作業の中にもこのReportの範囲に入ると思われるものがある。しかし、今後も現状通りの編集方法でやつて行くことにする。

9. Plotting ICに関する研究室案の検討(資料8)

初めての試みであるので、とにかく、案通り45年度は実行して行くことになつた。

10. 第3回中性子断面積研究会(資料7)

8月3日(月)、4日(火)に行う予定である。費用は原研受託費の中で考えているが、本年度、実行予算のうちの炉定数関係費という可能性もある。本委員会主催の形で行なわれる。

11. 次回

幹事会に一任、

以上